

第 33 回 白馬村地域公共交通会議 議事録

開催日時：令和 8 年 3 月 24 日（火）午前 10 時 30 分から

会議室：白馬村役場庁舎 2 階 201・202 会議

出席者

連番	所属・役職	氏名	代理	出欠	委任
1	白馬村副村長	吉田 久夫		出	
2	長野県企画振興部交通政策局交通政策課長	丸山 正徳	若宮 武尊	欠	○
3	長野県北アルプス地域振興局長	柳原 健	池上 和真	欠	○
4	長野県大町建設事務所長	柳澤 豊茂		欠	○
5	長野県大町警察署白馬村交番所長	名和 孝志		欠	
6	白馬観光タクシー株式会社 代表取締役	風間 雅裕		出	
7	公益社団法人長野県バス協会 専務理事	吉澤 實敏		欠	
8	公募委員	田代 雅子		出	
9	公募委員	渡邊 宏		欠	○
10	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	大村 進太郎		欠	○
11	北陸信越運輸局長野運輸支局長	白砂 健	塩原 隆太郎	欠	○
12	アルピコ労働組合川中島バス支部白馬分会長	古木 正生		欠	○
13	一般社団法人白馬村観光局 事務局長	福島 洋次郎		欠	○
14	白馬村健康福祉課長	工藤 弘美		出	
15	白馬村教育課長	下川 浩毅		出	

連番	所属・役職	氏名	代理	出欠	委任
－	小谷村 観光地域振興課(オブザーバー)	細井 宏紀		出	

事務局：白馬村観光課長 山岸 大祐、観光商工係長 矢口 浩樹、主事 内藤 優太

1. 開会

風間副会長より開会

冬シーズンが終わり落ち着いた時期であること、年度末のご多忙中の出席への感謝が述べられた。

吉田会長よりあいさつ

今シーズンのタクシー需要の増加とレンタカーの村内流入増加という傾向の変化が見られることに加え、公共交通として「誰もが乗れる」という位置づけと観光客利用との接点づくりが肝であることを述べ、各年度報告をもとに情報共有しながら審議を依頼した。

山岸事務局長

協議事項(2)の有限会社 JHN トラベルの地域運送計画案については、運送計画の範囲が小谷村にまたがるため、小谷村・白馬村でそれぞれ交通会議を開く必要はなく、白馬村公共交通会議に小谷村職員(観光振興課)をオブザーバーとして参加させる形式で認可を得ている旨を報告。小谷村より観光振興課の細井氏が出席。

2. 報告事項

報告(1) 令和 7 年度スクールバス運行実績・令和 8 年度運行計画について

下川委員より報告

- ・ **令和 7 年度の運行実績**：運行期間は 6 月～3 月。乗車対象は小学生で、バス 4 台・タクシー 2 台で運行。乗車率は概ね 50～60%程度(路線が長いことや家庭の事情による)。

- ・ **令和 8 年度の運行計画**：7 年度の通年運行の中で「通学路を知っておく必要がある」ことと、学校側から 4・5 月は通常通り歩いて登下校との希望があるため、令和 8 年度も同様の運行計画(対象・運行形態とも同様)。

報告(2) 年度 白馬村公共交通の実績報告

事務局内藤より報告

(1) デマンドタクシー実績

アプリ新規登録者 3,366 人、うち外国人登録者 1,212 人。

1.ふれ AI 号

- ・ 乗車完了予約 10,312 件・乗車完了人数 12,713 人、相乗り率 38.28%、1 日平均乗車人数 約 38 人。昨年度比で乗車完了が減少しているのは、10 月からの電話予約・アプリ予約の車両分け(アプリ予約用が 1 台)の影響。電話予約の利用率が多く、アプリ予約は相乗り率が高い。土日は 4 台(電話用 2 台+アプリ用 2 台)で運行。
- ・ 電話予約の配車不成立は 2 月が最多(降雪により公共交通利用が増加)。アプリ予約の配車不成立は全体的に電話より多く、2/16 の 1 台→2 台への増台により対応。秋～グリーンシーズン後もアプリ利用が増加傾向。土日祝日は 12 月以降、観光客増加により予約が取りにくい傾向。時間帯別では 16 時台(宿・飲食店への移動)にアプリの不成立が多い。
- ・ 平均待ち時間は概ね 4～8 分。人気乗降地点は白馬駅・スーパーマーケット・八方・エコーランド。電話予約は個人宅(ドアツードア)からスーパーマーケット・病院・ゲートボール場等への利用、アプリ予約は観光客による白馬駅・八方バスターミナル・スーパーマーケット・宿泊施設付近の利用が中心。土日祝日はアプリ予約と同様の傾向。
- ・ 八方～エコーランド間の移動と電話予約によるドアツードア移動が多い。

2.ナイトデマンドタクシー実績

- ・ 乗車完了予約 3,242 件、乗車人数 5,809 人、空乗り率 53.39%、1 日平均乗車 76.4 人。昨年度の利用実績を踏まえ、今年度は運行期間を月末(2 月)までに短縮(当初計画より 2 週短縮。前回会議で運行計画に含めて説明済み)。これに加え利用自体が減っており、

前年度比で乗車完了数 -27.2%、乗車完了人数 -35.2%。利用は Uber タクシーやレンタカー等に流出していると推察。

- 日別では年末年始(12/28～1/9)の利用が多く、不成立は大晦日と 1/20 が多い。時間帯別では遅い時間帯(飲食店帰り)の利用が今年度増加。エコーランド・八方の飲食店で働く人の足になっている傾向がログデータからも見受けられる。
- 平均待ち時間は最短 1.4 分～最長 17.9 分、概ね 7～15 分台で推移。人気乗降地点は八方・エコーランド・五竜エリア。
- 今年度、飲食店・ペンションが多い五竜エリアに乗降地点「NABURA」を需要があると判断し追加して大きな効果があった。

3.Uber タクシー配車実績

- **稼働タクシー会社と台数**：アルピコタクシー 54 台、白馬観光タクシー 7 台、アルプス第一交通 50 台、安曇野第一交通 8 台、南安タクシー 15 台、新規でジャムジャムエクスプレス 3 台・白馬交通 3 台。アルピコタクシー・アルプス第一交通は台数を倍増。関連の取り組みとして今年度から「Uber プレミアム」(アルファード・ヴェルファイア等の高価格ハイヤー)と日本版ライドシェア(白馬交通)が運行を開始。全登録車両は計約 150 台で、実働は 100 台弱。

グリーンシーズン(4/1～11/30)

乗車完了 4,785 回、単価 2,119 円、配車依頼 7,255 回、完了率 66%、1 日平均稼働 5.8 台・完了 3.4 回。朝の登山時間帯に需給ミスマッチがあるが、許容範囲内。

ウィンターシーズン(2/1～2/28)

乗車完了 82,557 回、単価 2,861 円、配車依頼 183,373 回、完了率 45%、1 日平均稼働 58.4 台・完了 15.7 回。12 月下旬(22 日以降)～2 月中旬に需要が集中し、最多日では 2 万件のリクエスト。台数を倍増しても需要増をカバーできず、3 割～4 割程度しか予約が取れない状況。朝のスキー場行き(7～9 時台)、夕方(15～19 時台)に飲食店・宿・コンビニ・スーパーマーケット行きの需要が集中。

セッション数(通年)：12 月 56,387 回、1 月 126,152 回、2 月 127,502 回。昨年度(12 月 32,753 回・1 月 70,377 回・2 月 67,887 回)比で冬場が約 2 倍。

(4) チャレンジ白馬 交通データ分析報告

デマンドタクシー・Uber・信州大学アンケート・TableCheck(レストラン予約)・HVT シャトルのデータが蓄積されてきたため、クロス分析により白馬村に最適な交通と時間帯による最適化を分析した。

村内/村外

村内移動が約 87%、村外(小谷村村内等)が約 11%。

乗降エリア

八方—エコーランド間が約 2 割 (17%) で優先度が最も高く、五竜—エコーランド間・白馬駅—エコーランド間が約 1 割 (各 11%)。外国人観光客の集まるエコーランド周辺の需要が大きい。八方—エコーランド間は歩いても行ける近距離移動(徒歩 10 分・車 5 分程度)が多く、午後の移動がほとんどで、タクシー需要が増える 16 時台と重複。何らかの策が必要。

移動目的別

降車目的は宿泊先・スキー場等への移動が多く、買い物目的・買い物地点からの移動も約 2 割。割合が高いため、宅配サービス・キッチンカー・移動販売等の策で移動削減を検討したい。

TableCheck(レストラン予約)

冬シーズンは時期に関係なく 17 時~20 時に予約が集中し、17 時から既に予約が入り 20 時半頃まで埋まる。17 時前からタクシー乗車が増える Uber 実績と整合。国別ではオセアニア(オーストラリア)が八方・和田野エリアでの予約割合が高く、欧米・アジア系はエコーランドの予約割合が高い。アジア系は白馬駅周辺・五竜・岩岳エリアにも散在している。

成果とロードマップ

Uber の増加により成立率は上がったものの、不成立数は変わらず需要が追いついていないため、タクシー以外も含めた近距離移動の対策と買い物に関する対策が特に必要。Step1 として八方—エコーランド間(タクシーが集中するエリア)で大型車両によるピストンバス運行またはタクシー増強など即効性のある施策、次年度にエリア拡大(エコーランド—五竜等)。最終的には認知度の高い Uber(信州大の認知度調査で外国人観光客に最も認知されている)

からデマンドタクシーへの誘導など、自分に合った交通を選べる仕組みを検討し、データを見ながら対策を打てる「全体最適」の確立を目指す。

○質疑応答

風間副会長

外国人観光客の国・地域別構成比を質問。

⇒事務局（回答）

概ね6割が欧米・オセアニアで、そのうち約8割がオセアニア(ほぼオーストラリア、次点でシンガポール等)。正確な情報把握が現状難しく、Uber・TableCheck等でニーズの違いがあるため資料での概観判断が妥当。どんぐり地区は除雪後の氷結で通常タクシー・四駆でも非常に危険。乗客が出てこない・次の予約に影響する等の実情。対応としては乗客にある程度行ける場所まで出ていただくこと、JRの「計画運休」のような事前の運行見合わせの導入も必要ではないかと思う。現地に行けない場合は配車員・役場と連絡できる画期的なアイデアについて実務者レベルで相談したい。

工藤委員

ふれAI号により多くの方に乗車いただくため、2月から「乗車支援員」を開始(2台分を毎日対応できる人員はまだ集まっておらず、応募者の可能な範囲での試行運用)。支援員の乗車により一人での乗車に不安のあった方の利用促進と、運転手が車を降りて利用者を探す負担の軽減を期待。市民さんの勤務予定次第で固定した乗車曜日の案内ができない現状がある。また、今冬の降雪量は少なかったがどんぐり地区では凍結により複数の事故が発生し警察による道路封鎖もあったので、大雪時は利用側も緊急以外の外出控えの協力も必要だと思っている。

田代委員

五竜⇄エコーランド間の移動が「店から店」なのか「宿への帰宅」なのか質問。

⇒事務局（回答）

デマンドの乗降地点は固定(エコーランドロータリー・火鍋等)だが移動ニーズまでは判別不可。タクシーは地点が把握可能で、ニーズ別に分析可能。

風間副会長

五竜エスカルプラザ・エコーランドでのピックアップは深夜から朝が多い、夕方はエコーランド方面の飲食店(エコーランド地区の Calico、火鍋、和田地区の ToriCo.byHHG 虜)への移動が特に多い。

事務局

デマンドタクシー利用率の下落について飲食店にヒアリングしたところ、キッチン広場の整備や飲食店の増加により食事場所が分散し、混雑・渋滞が多少緩和されている可能性がある。移動目的(買い物か飲食か)の判別は分析上の課題であり、タクシー乗車中の QR アンケート(数%でも取得できれば需要把握に有効)を検討。

塩原氏

軽井沢は GO アプリが都心客に強く、白馬は Uber が外国人に強いとの印象。白馬村と実施した白馬駅での取り締まりを通じ、白タク情報の所在とレンタカーの適正利用が当局の課題。観光課と相談の上、来年度シーズンに向けて取り組む。

吉田会長

都会側の他県ナンバー車が長期間白馬で営業している情報があり、隠れ蓑がないか連携して対策したい。

県内各地(野沢温泉等)でも長期間不審なナンバーが見られ、全県的な対策を検討する必要。

風間副会長

摘発は実態把握が難しい。

3. 協議事項

協議(1) 令和 8 年度白馬デマンドタクシー運行計画について

昨年 11 月の公共交通会議で 7 年度計画(ふれあい号の電話・アプリ予約の車両分け)を説明済み。令和 8 年度の形態自体は変わらず、電話予約車両を「ふれあい号」(福祉・住民メイン)、アプリ予約車両を「デイデマンドタクシー」(観光客・住民)に名称変更。仕組み自体は昨年承認の計画と同じ。

変更点

- ・ ふれあい号は 365 日 2 台運行から平日のみの運行に変更。デイデマンドは 2/16 に 1 台増台済みで引き続き 2 台運行。土日はデイデマンド 2 台のみ(土日にふれあい号を予約したい方はデイデマンドの予約へ)。
- ・ **予約方法**：ふれあい号は電話予約・村民のみ。受付は 3 日前から 4 日前に変更(連休対策、4 月 1 日から)。デイデマンドは従来通りアプリで 365 日 24 時間・3 日前から予約可能。

風間副会長

運賃(300 円/270 円)は変更なしだが、燃料費上昇を受け長野県内外でタクシー運賃の値上げ申請が進んでおり、例えば一般(村民以外)は 500 円・村民は 300 円など値上げを検討すべき。また定期券の悪用(同一内容の乗車を別の人が繰り返す)も指摘。

⇒事務局回答

運賃設定は運賃協議会を経由する必要があるが本会議で決める事項ではないが要望として受理。観光客・住民・外国人の金額分けは難しいが、今年度導入した地域通貨「アルプス Pay」とデマンドタクシーの紐付けによる住民還元(ポイント還元)を検討中。

吉田会長

京都市の例もあるが、全員がアプリ・マイナンバーカードと紐付けるわけではないため「困った人」の扱いなど別次元の議論があり、議会でも取り上げられている。

採決：令和 8 年度白馬デマンドタクシー運行計画案について、全会一致で承認された。

協議(2) 一般乗用旅客自動車運送事業(区域内運行)計画案について — 内藤主事・運輸局

事務局説明

有限会社 JHN トラベル(ケビン・モラード氏)からの依頼案件。同社は貸切旅客自動車運送事業として貸切バスを白馬エリア中心に運行していたが、運輸局の助言を踏まえ貸切運行から区域内運行への変更したい。白馬駅から各宿泊施設への足を目的とし、冬期(12 月～3 月メイン)の移動手段確保がメインで、申請区域は ZONE A～E: 神城エリアの宿泊施設、

ZONE C のどんぐり・岩岳エリアの宿泊施設、ZONE DE(小谷村)の栂池・コルチナ等への移動をし、将来的には年間運行も視野に入れている。

塩原氏（補足）

深夜に白馬駅へ降りた外国人観光客に「各自でホテルへ」とするのは心苦しく、危険も伴うため移動手段を確保する趣旨。既存の地域交通(タクシー会社等)への影響が議論の一つ。

風間副会長

本日初めて資料を見た。インバウンド対応で最も手薄になるのは駅であり(各社とも Uber 担当を優先し、電話客の対応が偏る実情)、本件は駅と宿を結ぶ取り組みとして理解できる。デマンドと同じ仕組みだがマイクロバス使用のため機動性は劣る点、細い道には無理に入らない等、安全運行を期待。一方で、運転手間の縄張り意識(公共交通圏域拡大の際に運転手から反発を受けた経験)、長期滞在する他県ナンバー車への反応など事業者間の実情もあり、関係タクシー会社への事前説明が必要。

3月30日に大町で北アルプス安曇野公共交通会議があるため、そこで情報共有・意見交換した上で、次回の交通会議で承認を得る方向で提案したい。

吉田会長

運行終期(3月)の記載が書面上ない点、認可が通年ベースで続く点から判断しづらいため、時間的制約を踏まえ、関係するタクシー・バス事業者への事前説明を前提としての採決提起。

採決：有限会社 JHN トラベルの一般乗用旅客自動車運送事業(区域内運行)計画（案）について、全会一致で承認された。

4. 閉会

風間副会長

重要な議題がすべて可決・承認されたことに感謝。個人的には内外からの意見対応に苦しい面もあるが、白馬全体の地域交通の課題は避けて通れず、タクシー・全交通・地域が前向きに取り組むしかない。ベクトルを同じくして良い方向へ持っていけるよう協力を依頼し、会議を終了した。